



業の深い母

室井佑月

大昔、あたしが独身だった頃の話だ。結婚し家庭を持つている同級生の家に遊びに行ったときのこと、彼女に当時六歳になる長男の描いた落書きをむりやり見せられた。膨大な量のそれは、丁寧に年齢別ファイルされてあった。彼女は言った。

「この子、絵が好きみたいなんだよね。もしかしたら将来画家になるかも。知ってる？」ゴッホのお母さんも、ゴッホが小さいときに描いた物、全部とっていたんだって。

一瞬、言葉を失った。親馬鹿め。だいたい彼女も彼女の旦那も、絵心があるな。どこの話は聞いたことがない。二人の家系にだって、画家らしき人はいやしなはずだ。

「あなたの息子はゴッホにならないから安心しろ」とあたしは告げた。

だが、子供を産んだ今ならば彼女の気持ちもよくわかる。あたしもじつは息子の絵を保管していたりする。すべて、可能性はゼロじゃないんじゃないかと。息子が日本のゴッホになるってこともありえるよなあ。持って生まれたDNAにより、どういった人間なり、どういった人生を歩むのか、ある程度決まっているな。どこの学者もいるけどあたしは信じない。そんな夢のないこといつか！

じつは我が家は子供にとって、落書き天国かもしれない。今や物書きの世界では、依頼された原稿を編集部にメールで送るのが主流だ。だが、あたしは印刷された物を編集部に送る前にいったん読みたい派。原稿はまだファックスで送っている。あたしがこの仕事をしている限り、我が家には裏が真っ白の落書きに丁度良い紙がたくさんあるのだ。息子の友達が遊びに来た日など、膨大な量の紙を渡すことも喜んでもらえる。

（裏にエッチな小説が書いてあるやつが、字が読めないからいいな）
「と読んでいたんだが……。最近だとどしどしではあるが、息子はひらがなが読めるようになってきた。そのうち生意気に漢字も読めるようになるだろう。書いてある文の、意味も考えるようになるだろう。」



室井佑月(むろい・ゆづき) 1970年青森県生まれ。モデル、女優、レースクイーン、ホステスなどの職業を経て、97年『小説新潮』の「読者による『性の小説』」に入選してデビュー。著書に『熱帯植物園』『血い花』『Piss』『ラブゴーゴー』『恋のQ&A』など多数。

息子の絵を保管しておきたいあたしは、やつが落書きをするといえは真つ新紙を渡すようになった。ママの顔を描くと宣言したときには、だつて、あたしが集めているのは、息子が描いたあたしの顔だけであつた。

「ビヘー。不気味じゃ」と彼女たちは仰け反つた。あたしはゴッホの話をした。

「ゴッホのお母さんは、ゴッホが小さいときに描いた落書きまで取っておいたんだって。」

「違つ、そこじゃない。母である自分の顔だけ描かれたものを取つてあるつてところが怖い。なんつ業の深い母親だつて、そつがしら。そつがもしれん。」

PAPER Q&A Vol.5

Q. 電化製品にも「紙」が使われているんですか？

A. 紙が持つ絶縁性の特徴を生かし、プリント配線板の基材として役立っています。

テレビ、ビデオなど、ほとんどの電化製品にプリント配線板が使われているのをご存知ですか？ プリント配線板は、「積層板原紙」に熱硬化性の樹脂をしみこませて加熱、加圧したものに、銅箔を貼り合わせ、配線図を印刷した後、余分な銅箔を除去したものです。積層板原紙がもつ強さや液体を吸う性質、電気絶縁性などが着目され、電化製品の部品として幅広く利用されています。



実際にビデオに使われているプリント配線板。下のこげ茶色の板の部分が紙です。



今回は9月30日号、片岡鶴太郎さんです。

提供 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

photo: Yohei Maruyama